**准校長　津村　友基**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| ・安全・安心な教育環境を基盤に、児童生徒一人ひとりの人格を尊重し生命と人権を守る学校  ・知識・技能及び思考力・判断力・表現力の向上、学びに向かう力の醸成により、校訓の「明るく・正しく・たくましい」児童生徒を育む学校  ・本校がこれまでに培ってきた特別支援教育の歴史と伝統に裏付けされたスキルを継承し、時代のニーズに応えられる学校 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １ 生徒一人ひとりの特性に応じた指導・支援の充実  　（１）普通課程、生活課程に在籍する生徒の障がい特性をふまえた教育課程の編成及び効果的で適切な運用とクラス、学年を中心とした学校生活の充実  　　ア　担任力をさらに強化し、複数担任制による教員相互の連携を密にし、クラス担任が主力となって生活支援や指導、進路支援や指導をする。  　　イ　キャリア発達支援の観点を示した表を活用した授業を充実する。  　　ウ　ユニバーサルデザインを活用した学校、教室環境の整備をすすめる。　またＬＧＢＴにも配慮した教育の推進をはかる。  　　エ　学年団（普通課程、生活課程）の運営の充実のため、各課程の学年主任、首席の連絡会議を設ける。  （２）堺支援独自のキャリア教育の推進  　ア　生徒・保護者の立場にたって進路支援を充実させる。  　イ　地域関連機関と協力、協働して支援体制をつくる。  　ウ　「働くこと」を意識した実践的な体験学習を実施する。  ２ 心身ともに健康で安全・安心な学校づくり  　（１）いじめゼロへ向けての生徒指導体制の構築  　　ア　いじめ防止に向け、生徒の状況把握につとめ、学年をこえての連携体制をつくる。また養護教諭と教員の連携を密にする。  　　イ　生徒指導部とＰＴＡの連携でいじめ防止活動、スマホ安全利用など、生徒が安心して学校生活を送る取組みをすすめる。  （２）公共心を育て、個々の可能性を引きだし育てる活動の充実  　　ア　自分が学ぶ場所は自分たちできれいに保つ気持ちを養うために、期末、学年末に校内清掃を実施する。  　　イ　朝のあいさつ運動を継続し、生徒会選挙を通じて政治的素養を養う。  　　（３）学校の危機管理体制の充実  　　ア　災害訓練を徹底し、生徒の保護者引き渡し訓練などよりいっそう実際的な訓練を行うとともに、危機管理体制を強固なものとする。    ３ 地域等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成  （１）地域と連携した教育の推進と堺の歴史や文化に親しむ  　　ア 「さかいホタルプロジェクト」の協力団体としての「カワニナ」の養殖、「仁徳陵」周辺の清掃活動等の推進と、ビオトープ等を活用した新たな環境教育に取り組む。  　　イ 堺市立障害者スポーツセンターと連携し、教職員の交流、教員の障害者スポーツの専門性向上、スポーツセンター施設活用などを積極的に推進し、障がい者スポーツの理解と振興を図る。  （２）次世代を担う教員の育成  　　ア　本校の状況や地域性等をふまえ、バディ制度を活用した、実践的な堺支援版「初任者研修」を充実させる。  　（３）学校からの積極的な情報発信  　　ア　児童生徒や支援学校への理解・支援が広がるよう、学校ホームページ等の充実を図る。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　　年　　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　生徒一人ひとりの特性に応じた指導・支援の充実 | （１）生徒の障がい特性をふまえたクラス、学年を軸とした学校生活の充実  （２)堺支援独自のキャリア教育の推進  （３）教員の教材教具の使用方法の合理化 | （１）  ア　担任集団力、学年集団力の充実  イ　視覚支援を活用した教育環境整備を充実させる。  ウ　普通課程と生活課程の指導体制  の連携を図る。  （２）  ア　「なにわの伝統野菜」「大阪産（も  ん）」の栽培品種を増やし、購買意  欲を増すような工夫を加え堺支援  の職業（園芸）の特産品にする。  また、自分たちで作る喜びを体験  することや、職業の学習を中心に校外のアンテナショップに出店し、販売することで就労意欲を高める。  イ　本人や保護者の寄り添った進路  指導の充実を図る。  （３）生徒の学びを充実させるため、教具、支援教材の共有化をすすめる。 | （１）  ア　各クラスで生徒の状況把握の徹底や  情報共有のため、毎日担任連絡会を行  うとともに、学年主任は毎日各クラスの  状況を収集して把握する。  教育自己診断・保護者用アンケート  において、「学校では教職員が協力しあって子どもの指導や学校運営にあ  たっている」の肯定率を90％以上にする。  （H30年度90％、H29年度89％）  イ　各クラスで生徒の特性に応じた視覚  支援をクラスで３つ以上行う。  （H30年度は２つ以上）  ウ　担当する課程を入れ替える教職員を各学年で３名以上とする。また、両課程の授業をそれぞれの教職員が担当できるように、学年で工夫し、授業担当者を決める。  （２）  ア　「田辺大根」などを栽培し、野菜特売  で地域の方々に販売する。  また堺東商店街での「ガシ横マーケッ  ト」に年２回以上出店する。老人施設などでの販売を年２回以上実施する。  Ｇコースの生徒が、老人施設等での実習を１人２日以上実施する。  イ　教育自己診断・保護者用アンケート  　において、「学校は将来の進路や職業  などについて適切な指導を行ってい  る」の肯定率を90％以上にする。  （H30年度90％、H29年度80％）  （３）教科ごとに教材教具やプリント類の整理を行い、保管場所を確保し、誰でも使用できるようにすることで業務の効率化を図り、働き方改革に繋げる。 |  |
| ２　　心身ともに健康で安全・安心な学校づくり | （１）いじめゼロへ向けての生徒指導体制の構築  （２）公共心を育て、個々の可能性を引きだし育てる活動の充実  （３）学校の危機管理体制の充実 | （１）  ア①生徒・保護者からの情報を得る。  　②生徒指導部を中心として、生徒の  状況の把握など校内各部署の連携  を積極的にすすめ、組織として事案  に対応していく。  イ　ＰＴＡとの連携を密にし、学校と家庭で生徒を見守るネットワークづくりを推進することで、学校全体で生徒の安全・安心を守る。  （２）  ア　定期的に校内清掃を実施するこ  とで、自分たちが学ぶ場所は自分た  ちできれいに保つ気持ちを養う。  イ　生徒会活動の活性化を図る。  ①生徒会を中心とした朝のあいさ  つ運動を継続・充実させる。  ②生徒会選挙を通じて政治的素養  を養う。  　③生徒会として自主的な活動を実施する。  （３）  ア　実際的な訓練を行い、生徒、教職  員、保護者のすべての防災意識を高  め、危機管理体制を強固なものとす  る。 | （１）  ア①毎学期に生徒・保護者に「いじめ」ア  ンケートを実施し、生徒間でいじめ等が  ないかを把握し、必要に応じ生徒指導等  を行い、いじめと認定する事案を０件と  する。  ②生徒指導部、養護教諭、部主事の連絡  会議を月１回程度行い、生徒の実態を把  握し、特別指導委員会やいじめ対策委員  会に繋げる。  イ　ＰＴＡ役員会等で学校の状況等の説  明を密に行い、保護者との情報共有を図  る。また、教育自己診断・保護者用アン  ケートにおいて「学校はいじめについて  子どもが困っていることがあれば真剣  に対応してくれる」の肯定率を92％以  上にする。（H30年度92％、H29年度82％）  （２）  ア　期末、学年末に校内清掃を実施する。  　　また、ＰＴＡと一緒に校内清掃を年２  回以上実施する。  イ①あいさつ運動を継続することで、自主  的にあいさつする生徒や場に応じたあ  いさつができる生徒を増やす。  ②堺市選挙管理委員会から投票用の器材を借りて、本校の生徒会役員選挙を実施し、選挙への意識を高める。また、堺市選挙管理委員会の関係者からの選挙について生徒向け講演を実施する。  ③生徒会役員が中心になって楽しい学校づくりに向け、新しい活動を実施する。  （３）  ア①災害時の緊急引き渡し訓練を年１回  実施し、訓練への保護者の参加率を増加  させる。（H30年度30％）  　②高等部で年間１回以上は、防災センターでの校外学習を実施する。 |  |
| ３　地域等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成 | （１）地域と連携した教育の推進を図る  （２）次世代を担う教員の育成  （３）学校からの積極的な情報発信 | （１）  ア　「さかいホタルプロジェクト」への参画  イ　仁徳天皇陵古墳清掃活動への参加  ウ①堺市立障害者スポーツセンター  及び大阪府立障がい者交流促進セ  ンター（ファインプラザ）と組織的  に連携し、相互の教職員の交流を深  める。  ②障がい者スポーツを体験することで理解を深め、生涯スポーツに繋げる。  （２）  ア　バディ制度を活用し、実践的な初任者研の充実を図る。  （３）  ア　ブログ等での情報発信の充実を図る。  イ　保護者配付プリントの見やすさやわかりやすさを向上させる。 | （１）  ア　「ホタル観賞会」への児童生徒や保護者の参加者数を50名以上とする。（H30年度参加者数40名）  また、カワニナの養殖に継続して取り組む。  イ　年２回の清掃活動への児童生徒・保護者・教職員の参加者数を昨年度の10％増とする。（H30年度参加者70名）  ウ①准校長、首席、体育科教員とそれぞれ  のセンターの職員からなる連携協議会において、連携研修等を計画し、それぞれ年３回以上の研修等を実施する。  ②「ボッチャ」の教員向けの研修を行い、  授業に取り入れることで、高等部の生徒  への周知を図る。また、スポーツセンタ  ー及びファインプラザの指導員を招致  する取組みを実施する。  （２）  ア　教育自己診断・教職員用アンケート  　において、「初任者等、経験の少ない  教職員を学校全体で育成する体制が  とれている。」の肯定率を80％以上に  する（H30年度73％、H29年度76％）  （３）  ア　ブログの内容を充実させ、年間45回  以上更新する。  保護者アンケートの「ホームページは学校の状況をよく伝えている」の肯定率を90％以上にする。（H30年度82％、H29年度81％）  イ　保護者配付プリントは、視覚支援を積極的に取り入れる。また、難しい用語には解説を加えるなど工夫をする。 |  |